

## 自己評価報告書(最終報告)

コース等名

国際教育コース

記載責任者

小澤 大成

## ■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

## I. 学長の定める重点目標

## I-1. 大学院の学生定員の充足

貴専攻・コースにおける過去5年間の大学院学生定員充足状況を分析・検証し、達成目標を設定するとともに、どのような具体的方策を立てて、目標達成に向けて取り組んでいくかを示して欲しい。

## 1. 目標・計画

平成20年度に開設された国際教育コースの学生定員については、平成20年度(日本人学生1名、留学生3名)、平成21年度(留学生1名)、平成22年度(日本人学生1名、留学生5名)であり、特に日本人学生の入学者数が少ない。そこで平成24年度入学者数目標を定員の10名とする。

平成24年度入学者より国際教育コースが養成する人材像を「世界から学び、世界とともに考え、そして世界で教える人材」とし、「国際教育協力専門家養成分野」では理数科やICTに限らず、国際理解に関する豊かな素養と国際教育協力に必要な専門的能力を培うこととした。これをふまえ、入試内容を変更する。国際教育協力や国際理解に興味をもつ国際関係学部学生や現職教員を対象とした広報を実施する。具体的にはパンフレット送付、教員による訪問及び教員教育国際協力センターと連携したセミナー開催を実施する。

## 2. 点検・評価

平成24年度入試の試験内容を従来の「教員研修の分野・理数科教育の分野・ICT教育の分野」から「国際教育協力に関する分野」と変更し、より広い層が応募できるようにするとともに、関連大学へのポスター・チラシ送付、公開講座や10年次研修の開催、教員協力国際協力センターとのフォーラム開催等、広報に努めた。その結果、平成24年度合格者・入学者は日本人学生5名合格・3名入学、留学生6名合格・5名入学と平成23年度の合格者・入学者数(日本人学生1名合格・1名入学、留学生6名合格・6名入学)より増加したものの目標を達成することはできなかった。

## I-2. 学生支援の取り組み

学生の卒業時・修了時における「質」保証のためには、常日頃から学生に対する支援を推進していくことが必要である。

貴専攻・コースにおけるこれまでの学生支援の取り組み状況を分析・把握し、本年度どのような学生支援の取り組みを行うか、具体的な方策を示して欲しい。

## 1. 目標・計画

平成22年度より国際教育コースの全教員および全大学院生が参加するセミナーを定期的開催し、国際教育協力の現状と課題に関する文献レビュー、それぞれの国ごとの国際教育協力の取り組み等に関する報告、研究の進捗状況報告等を実施している。また受託したJICA研修を活用し、短期研修員出身国の教育の課題分析、模擬授業、帰国後の行動計画発表等に大学院生を参加させ、研修員との意見交換を通じて資質を向上させる機会を持っている。本年度もセミナーやJICA研修の活用を図り、大学院生の能力向上を通じて質保証を図りたい。

## 2. 点検・評価

平成23年度も国際教育コースの全教員および全大学院生が参加するセミナーを定期的に行い、国際教育協力の現状と課題に関する文献レビュー、それぞれの国ごとの国際教育協力の取り組み等に関する報告、研究の進捗状況報告等を実施した。またアフリカの3大学を含む他大学の研究者を招いたセミナーも行い、先端的な研究に触れる機会を確保した。大洋州研修、ケニア研修、仏語圏アフリカ研修に大学院生を参加させ、研修員との意見交換を通じて資質を向上させる機会をもった。

## II. 分野別

### II-1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

1. 本コースのみ、国際教育コース院生研究室がない状況がコース設立以来続いている。大学院生の研究環境整備のため、今年度はぜひ確保したいと考える。

2. JICA長期研修員および私費外国人留学生については現代教育課題総合、言語系(国語)、自然系(数学)及び自然系(理科)の各コースおよびチューターと連携し教育・学生生活支援を実施する。

## 2. 点検・評価

1. 全学教員集会等において大学当局に要望を伝えてきたが残念ながら確保できなかった。

2. JICA長期研修員および私費外国人留学生については現代教育課題総合、言語系(国語)、自然系(数学)及び自然系(理科)の各コース、心身健康センター及び教員教育国際協力センターの各センター及びチューターと連携し教育・学生生活支援を実施した。

### II-2. 研究

#### 1. 目標・計画

1. 科学研究費補助金や学内外の研究資金の申請・獲得を通じて、国際教育協力に関する研究を行う。特に本学が受託しているJICA研修の立案・実施・評価に関する研究を、事前調査、研修時の質問票調査、フォローアップ調査によって行い、研修効果やより良い研修の在り方について明らかにしたい。

2. 教員協力国際協力センターと連携し、ユネスコスクール事業等を通じて持続的な発展のための教育(ESD)に関する実践的研究を行う。

## 2. 点検・評価

1. 科学研究費補助金や学内外の研究資金の申請・獲得を通じて、国際教育協力に関する研究を行った。特にコース長が研究代表者として申請・獲得した教育研究支援プロジェクト資金を活用し本学が受託しているJICA研修の立案・実施・評価に関する研究を、事前調査、研修時の質問票調査、フォローアップ調査によって行い、研修効果やより良い研修の在り方を考察した。

2. 教員協力国際協力センターと連携し、ユネスコスクール事業で実施したフォーラム・研修会、オープンフォーラムを通じて持続的な発展のための教育(ESD)に関する実践的研究を行った。

## Ⅱ－3. 大学運営

### 1. 目標・計画

1. 大学の各種委員会に積極的に参加し、大学運営の活性化に貢献できるようにする。
2. 国際教育コースの教育に関し、学内外の関係部局・諸機関との連携を密にし、方法・内容の充実を図る。

### 2. 点検・評価

1. 自然・生活教育部および基礎・臨床系教育部を母体として選出された各種委員会に積極的に参加し、大学運営の活性化に貢献した。
2. 国際教育コースの教育に関し、学内では現代教育課題総合、言語系(国語)、自然系(数学)及び自然系(理科)の各コース、附属学校、学外ではJICAと連携を密にし、方法・内容の充実を図った。

## Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

### 1. 目標・計画

1. JICA四国と連携し、総合教育センターの国際理解教育に関する10年次経験者研修を実施する。
2. 徳島県の国際協力NGO「TICO」と連携し、国際理解教育に関する公開講座を実施する。
3. JICAから本学が受託する研修に、研修統括や講師として参加する。

### 2. 点検・評価

1. JICA四国と連携し、8月21日に総合教育センターの国際理解教育に関する10年次経験者研修を実施した。
2. 徳島県の国際協力NGO「TICO」と連携し、5月21日に国際理解教育に関する公開講座を実施した。
3. JICAから本学が受託する全ての研修に、国際教育コース教員が研修統括や講師として参加した。

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)